

叫(さけび)

2007(平成19)年5月13日鑑賞(ユウラク座)

★★★★



監督・脚本＝黒沢清／プロデューサー＝瀬隆重／出演＝役所広司／小西真奈美／伊原剛志／葉月里緒奈／オダギリジョー／加瀬亮／平山広行／奥貫薫／野村宏伸／中村育二(ザナドゥー、エイベックス・エンタテインメント、ファントム・フィルム配給／2006年日本映画／104分)

……『ドッペルゲンガー』(03年)、『LOFT ロフト』(06年)に続いて黒沢清監督独特の世界へ入場してみたが……？ 幽霊の正体とは、人が直面することを最も恐れる過去……。そんな黒沢清監督流の「定義」を立証するかのように、物語が進んでいくが……？ 注目は赤いドレスを着た女幽霊に「魔性の女」葉月里緒奈を起用したこと。さて彼女の叫(さけび)とは？ そして、「あなただけ許します」の言葉の意味するものは……？

2番館でこの映画を……

ここ数年、劇場公開前に試写室で観る本数が増え続けている私だが、天六にあるホクテンザは月に数回必ず出かけている映画館。ここは、5月12日から『俺は、君のためにこそ死ににいく』を上映するなど、たまには一流封切り館と同じ日程で作品を上映することもあるが、有名作品の上映は2番館としてのケースが多い。したがって私にとっては、見逃していた作品を拾うのに最適という効用も……。また、韓国映画特集など面白い特集を時々やってくれるのもありがたい。そんなわけで、今回は見逃していた黒沢清監督、役所広司主演の『叫(さけび)』を2番館のユウラク座で観ることに……。ちなみに、『叫(さけび)』は『キネマ旬報』3月上旬号の「作品特集」として取り上げられていたため、事前にバッチリとそれを読み、「幽霊をリアリズムで描く試み」に注目し、また「幽霊の去り方」についても興味を持って臨んだが……。

■ビッグネームのタッグだけでは……

黒沢清監督は『CURE キュア』（97年）、『アカルイミライ』（03年）、『ドッペルゲンガー』（03年）、『LOFT ロフト』（06年）等の作品でホラー、サスペンス、スリラーという恐怖の世界を描き、今や「世界のクロサワ」として有名になっている監督。他方、『リング』『呪怨』シリーズをはじめとするホラー映画の仕掛け人であり、国際的に活躍している有名プロデューサーが一瀬隆重。

『叫（さけび）』は、この2人がはじめてタッグを組んだというのが1つの話題で、2006年にはベネチア国際映画祭に正式招待され、絶賛を浴びたとのこと。たしかにそういう意味では、ビッグネームをうまくつないで話題を作り出し、アメリカをはじめ全世界で配給したり、ベネチア国際映画祭に出品したりした映画だが、私が観る限り、作品の価値としてはイマイチ……？ 決してビッグネームのタッグだけでいい作品が生まれ、ヒットするわけではないことを実感……。

■黒沢清監督作品における役所広司は？

役所広司は私の大好きな俳優だが、彼が黒沢清監督と組んだ『CURE キュア』、『ニンゲン合格』（99年）、『カリスマ』（00年）の3本は観ておらず、観たのは『ドッペルゲンガー』のみ。『ドッペルゲンガー』は私の大好きな永作博美が映画初出演していたこと、自らの分身と向き合うドッペルゲンガー＝自己像幻視のため1人2役を熱演していた役所広司の演技の見事さが光っていたため、私の評価は結構高かった（『シネマルーム3』347頁参照）。

ちなみに、黒沢清監督作品ながら役所広司ではなく豊川悦司が主演し、ロフトの中で「ミイラ」と格闘する(?)『LOFT ロフト』は、巧みなストーリー展開を評価しつつ、「後は観客の問題……」「さて、あなたの評価は……？」と突き放し(?)、私の採点は星3つだった（『シネマルーム12』91頁参照）。

さて『ドッペルゲンガー』に続く黒沢清監督と役所広司のコラボは……？ 結論から言うと、終始幽霊と格闘せざるをえない立場に追い込まれる吉岡登刑事を役所広司がヒゲぼうぼうの風体でうまく演じていることは認めるものの、ストーリーが平凡で、多少マンガチック……？

久々の葉月里緒奈だが……

「魔性の女」として有名(?)な葉月里緒奈は、私の評価によれば、女優としての個性と能力は抜群。しかし、2度も女優業を休業したため、順調に出世できなかったのは仕方なし……。2004年の結婚・出産による休業後、テレビでのゲスト出演を経て、この映画で映画活動を再開した彼女の役は、赤いドレスを着た女幽霊……。

「ファミ・ファタール」とは、「男を惑わし、時として破滅にも追いやる宿命の女」だが、彼女にはそんな役がピッタリ。愁いをおびた目、誰も自分のことをかまってくれないことに対する抗議と怒りの目による演技は、まさに彼女ならではのもの……。しかし、この映画のタイトルどおり、彼女の口からカン高い叫び声が出される(この叫びの声の出演は牧野芳奈)のはいかがなもの……。また、吉岡刑事の前に現れた赤いドレスを着た幽霊が、自ら玄関のドアを開けて出て行った後、まるで、ほうきを持たない魔法使いのように、空を飛んでいくのは、あまりにもマンガ的……？

さらに、せっかく葉月里緒奈という女優を起用しながら、ベッドシーンが一切ないのが大いに不満。今年の夏に公開される黒木瞳主演の『怪談』だって、予告編を観る限りベッドシーンがありそう(?)なのだから、葉月里緒奈を起用した以上、それくらいのサービスをしてよかったのでは……？

幽霊の正体、それは直面することを恐れる過去……？

幽霊をテーマとした映画は洋の東西を問わずたくさんあるが、この映画で黒沢清監督は幽霊の正体を明確に定義づけしている。それは中国映画『チャイニー



DVD『叫(さけび)』

プレミアム・エディション ¥4,935(税込)
発売・販売元：エイバックス・マーケティング
©2006「叫」製作委員会

ズ・ゴースト・ストーリー』(87年)で描かれた幽霊とは全く異質のもの……？

映画冒頭に紹介されるのは、湾岸の埋め立て地で、赤い服の女性が水たまりの中に顔を押しつけられて窒息死したという殺人事件。その捜査にあたるのが吉岡刑事と同僚の宮地刑事(伊原剛志)、そして若い桜井刑事(平山広行)たち。不思議なことは、なぜかその泥水には海水のような塩分が含まれていたこと。そしてまた、なぜか吉岡は現場に残る遺留品に、自分自身の影を感じることに……。

しかも死体をタンカに乗せるとその口からは大量の泥水が……。こりゃまるで『LOFT ロフト』におけるミイラと全く同じような趣向……。そんな茶化しは別として、この映画のパンフレット冒頭には、黒沢清監督の明確なコンセプトとともに、「人が、直面することを最も恐れる過去、それが幽霊の正体だ」という明確な幽霊の「定義」が書かれている。この定義が100%正しいかどうかは人それぞれの判断だが、「最も恐れる過去」がなぜ吉岡刑事のような心身ともに健全で強く思える人物に現れてきたのか、それが私にはギモン……？

春江はどんな存在……？

この映画は全然恐くないホラー映画、サスペンス映画だが、1番ワケがわからないのが吉岡の恋人である春江。現在、その明るく愛くるしい笑顔で人気急上昇中の小西真奈美が演じている。しかし、この映画では全くその笑顔を見せず、ただ吉岡の恋人として吉岡の言われるままについたり離れたりしているだけの女性……。したがって、生きているのか死んでいるのかさえ、わからなくなってくる始末……。もしかしたら吉岡の心の中だけの恋人……。そのあまりに主体性のない生き方(?)には、多くの若い女性はイライラしてくるのでは……？

オダギリジョーと伊原剛志の役割は……？

本作の主役は役所広司だが、他の映画なら当然主演級のオダギリジョーや伊原剛志も出演している。しかし黒沢清監督は、彼らをあくまで脇役としてワンポイントリリーフ役に徹している。とりわけ同僚刑事宮地を演ずる伊原は、あくまで吉岡のカゲに隠れた存在で吉岡の引き立て役のみ……。

他方、オダギリジョーは刑事たちのカウンセリング治療を行う精神科医高木役

で登場し、幽霊の分析についてかなり貴重なアドバイスを行っている。もっとも精神科医のカウンセリングだけで吉岡の内面に持つ心の闇を消すことができればありがたいが、コトはそれほど簡単ではないはず……。さて高木医師は、吉岡の精神の中にどこまで入り込み、一体何を発見することができるのだろうか……？

超高層ビル建設の裏側は……？

東京の品川や千葉の浦安など、従来の重厚長大産業に代わって臨海部に建設された超高層ビル群はそれなりにすばらしいものだが、視点を変えて1歩その裏側からこれらを見てみると……？ その船案内をするのは、加瀬亮扮する船員が乗る作業船。裏側からよくみると、超高層ビル群にはその華やかさとは裏腹のみじめさや過去の暗い歴史の陰も……？

吉岡が調べたところによると、殺人事件のあった埋め立て地には昔大きな精神病院があり、そこに収容されていた患者は海水を入れた洗面器の中に顔をおしつけられるという体罰を受けていたらしい……。そんな精神病院もいつしかなくなり、今は人々の記憶から消し去られていったが、赤いドレスの女だけは……？

キーワードは「あなただけ許します」……

この映画のストーリー構成上の主人公は吉岡刑事だが、テーマ上の主人公は赤いドレスの女……。したがって吉岡が殺人事件を捜査し、さまざまな関係者と接触し、またその道程で自分自身の過去と向かい合っていく中、次第に、なぜ赤いドレスの女が自分の目の前に登場してくるのかを少しずつ理解できることに。つまり黒沢清監督は、その過程を映画の中で描くことによって黒沢流の幽霊の定義をつきつめようとしたわけだ……。そんな赤いドレスを着た幽霊が、やっとなるところまで到達した吉岡に対して述べるのが「あなただけ許します」という言葉。それは一体どういう意味……。そして、赤いドレスを着た幽霊の思いとは……？

2007(平成19)年5月15日記